

「エネルギー・デモクラシー」の理論的・実証的研究——真の平和構築のために

専門分野

法学・政治

キーワード

再生可能エネルギー デモクラシー(民主主義) 文明危機 平和 コスモポリタニズム

研究目的・概要

気候危機や自然災害、戦争や原発事故、資本主義の暴走など、現在人類は、「文明論的な危機」に直面しています。私は長年、私が専門とする（国際）政治学や平和学の視点から、核兵器や原発など、人間が作りあげてきたテクノロジーや近代文明がもたらす危機を、どのように人間がコントロールできるのかを考えてきました。

暫定的結論として、現代の巨大テクノロジーが影響を及ぼすすべての主体が、そのテクノロジーのあり方に関心をもち、意思決定に参加できることが重要であると考えています。つまり、デモクラシーのあり方こそが、人類の未来を決定します。

このデモクラシーについて、私はこれまで理論的な研究を続けてきましたが、単に選挙や一国の制度的な民主主義だけでは、現代のグローバル、かつプラネタリー（惑星的）な危機には対応できないと思っています。ローカルなレベルから地球レベルまで、多層的にデモクラシーが機能する政治空間を創りださなければなりません。この、ラディカル（根源的）でコスモポリタン（地球市民的）な新しい政治的意味空間を創りだす上で、近代の帝国主義や植民地主義を基礎づけてきた、化石燃料および原子力エネルギーから自然エネルギーへ転換すること（エネルギー転換）がとても重要になります。

ですから、再生可能エネルギーは、単に地球温暖化という危機に対応するためのものであるだけでなく、今後あらゆる地球大の危機に対処するための政治制度の構築にとってもきわめて重要な鍵をにぎっています。「エネルギー」と「デモクラシー（民主主義）」との関係性を研究する理由もそこにあります。中央集権で地域分断的な明治以降の日本の政治構造を克服し、地域分散でネットワーク型の新しい日本の姿を描くことも私の研究テーマとなっています。

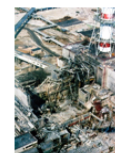
最終的には、再生可能エネルギーを創りだす市民社会同士が、国境を越えて連帯する、たとえば「東アジア自然エネルギー共同体」のような国際組織の可能性についても探究したいと思っています。またそのためには、実際に新潟地域で私自身が市民による再生可能エネルギー事業に取り組むことや、新潟県の「原発検証委員会」で専門委員として奉仕することなどは、この研究テーマの実証的意味からも、不可欠な活動となっています。

文明論的危機克服の学としての平和学

- 1945年(敗戦) ヒロシマ・ナガサキ
核/原子力エネルギー (Nuclear Energy)
 - 1950～60年代 核戦争の危機
 - 1970～80年代 貧困・抑圧・構造的暴力
+ 政策志向型平和学
 - 1990年代(冷戦後) 内戦・文化的暴力
平和構築
 - 1986年 チェルノブイリ 2011年 フクシマ
(Fukushima 2011.3.11.:「第二の敗戦」)
 - 2020年 新型コロナウイルス(Covid-19)
→ ワクチンをめぐる権力政治(Vaccine Politics)
- ★ 2つの核技術: 原子核 と 生命工学 ★
- 科学技術と専門家(専門知識)のあり方についての学へ。
ex. 人類学と協働した新しい文明論、生命倫理の探求、軍事研究批判...



1945

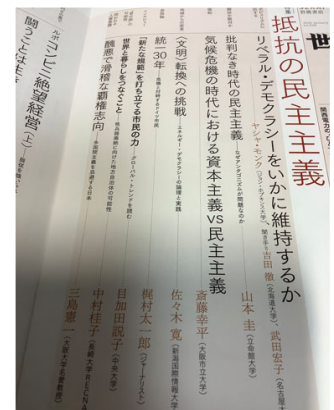


1986

2011

「民主主義の下部構造」をつくる

拙稿「文明転換への挑戦
——エネルギー・デモクラシーの論理と実践」(2020)



国際学部 国際文化学科
佐々木 寛 教授

担当科目：国際政治学、平和学、地球社会と人権、国際交流ファシリテーター、ファシリテーション実践論

HP

https://www.nuis.ac.jp/teacher_sasaki/

Researchmap

<https://researchmap.jp/read0195662>